

統一した管理体制のもと安定供給を実現

～(有)丸忠園芸組合(宮崎県小林市)～



1 組織の概要

組織名称	(有)丸忠園芸組合
業種	農業法人
代表者名	代表取締役会長 税所篤朗
所在地	宮崎県小林市北西方2007-2
連絡先	TEL:0984-27-1585 FAX:0984-27-2371
取扱品目	冷凍加工・業務用野菜 10割
社員数	役員:4名、社員:4名、実習生6名 季節雇用4名 (参考:契約農家110戸)

2 取組の推移

昭和43年	丸忠園芸組合結成(農家7戸でプリンスメロン栽培、裏作でだいこん)
昭和60年頃	加工用だいこんから加工用ほうれんそうへ転換
平成3年	えびの市の冷凍加工場と契約(組合員25戸～30戸 経営耕地面積_40ha)
平成15年	(有)丸忠園芸組合結成(自社耕地面積25ha)
平成18年	関連企業「綾・野菜加工館」(冷凍加工場)設立
平成26年	加工・業務用野菜生産基盤強化事業(22ha) 「綾・野菜加工館」加工用ほうれんそう生産組合

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1)基礎情報

取扱品目	ほうれんそう	こまつな	ごぼう	さといも
作付面積	30ha	6ha	4.5ha	3.3ha
出荷量	900t	180t	113t	83t
出荷時期	11月～4月	11月～6月	8月～4月	8月～9月
品種名	アリーナ クロノス	みなみ	伊助	石川
主な出荷先 (主な用途)	綾・野菜加工館 (冷凍)			
出荷形態等	7kgコンテナ	7kgコンテナ	10kg袋	20kg袋
取引先からのニーズ	トレーサビリティに対応できるとともに異物混入がない農産物を定量・定時に提供			

注:作付面積、出荷量は25年産データ

(2) 取り組んだきっかけ

丸忠園芸組合は昭和43年農家7戸で設立。プリンスメロン(裏作でだいこん)の栽培を行い順調に推移していたが、バブル崩壊後メロンの需要が低迷したことから野菜栽培へ転換。また、30年以上前からほうれんそうを冷凍加工場へ出荷するなど冷凍野菜に取り組んでいた。

(3) 取組の特徴

関連企業である冷凍加工場への出荷を安定的に行うため、契約農家に対しても肥料など生産資材のすべてを組合が支給。また、トレーサビリティに対応するため独自の栽培マニュアルに沿って減農薬栽培を実施。

- ① 自社プラントで独自製造した液肥を散布することで肥沃な土づくりを実現。これにより減農薬・減化学肥料栽培を達成。
- ② 実需者ニーズを踏まえた商品開発(除草剤の未使用等)。
- ③ 加工・業務用野菜生産基盤強化事業で作柄安定に寄与。

(4) 関係機関の支援

県の平成26年度加工・業務用青果物生産拡大加速化事業で乗用動力噴霧機等一部農業機械への補助。



粗洗後カットし、冷凍加工場へ出荷

4 販売先の開拓

冷凍野菜向けについては、今後とも関連企業へ出荷。

5 課題とその対応

- ① ほうれんそうにおいて連作障害の疑いのあるほ場については夏場に緑肥(エン麦)を入れるなどその効果を検証中。
- ② 実需者との契約で除草剤を制限されているため、雑草対策が課題。株間への手取除草をほぼ全ほ場で行うなど出来るだけ雑草が小さいうち撤去。また、複数回中耕・除草を行うことで異物除去(雑草)に対応。
- ③ 食品製造業者と定量出荷の契約取引であることから不作時を考慮し多めに作付。ただし、豊作など生産物の余剰が生じた場合は契約農家分はそのまま出荷し自社作付分は鋤込むなどの生産調整を行うことで対応。



管理機による中耕・除草

6 取組成果

関連企業との連携により様々な実需者ニーズへの対応が可能となり安定した契約取引(播種前に数量での契約)が可能。

7 今後の展開

収穫機の導入を検討。